

1. 英語科 カリキュラムの特徴

本学のカリキュラムの科目群は、英語科目、教養科目、基礎科目、専門科目で構成されています。

「英語科に入ったのだから、英語の勉強だけをするのだと思っていた」等の声を新入生から聞くことがあります。実はこれは「英語を学ぶとは？」という大切な問題に関連することです。

言葉というものはそれだけで成り立っているものではなく、相手に何かを伝える、あるいは相手の言いたいことを理解するために使われます。つまり「英語を学ぶ」といっても、学んだ英語で「何を伝えるのか」「何を理解しようとするのか」という「中身」がなくては、いくら英語を学んでも真に自分の力にはなりません。また、分かりやすく相手に伝えるためには、「どのように物事をとらえ、それを頭の中で整理し、順序よく組み立てるか」という力が大切になってきます。さらに、相手と理解しあうためには「多様なものの見方や考え方を知り、受け入れることができる」という力も大切になってきます。

教養科目を履修することで、視野を広げ、体系だった学問に触れながら論理的なもののとらえ方を身につけていきます。まず日本語でものを考える基礎的な力を養うことは、英語を理解し、使いこなすためにも不可欠になります。

必修英語科目では、本学の建学の精神である「Women for Others, with Others」を反映した内容で、英語の読む、聴く、書く、話すという4技能をバランス良く学習し、複眼的思考や自律した学習能力を身につけます。ここでは、責任ある地球市民として知っておくべき内容について英語を手段として学び、調べたことや自分の意見を積極的に英語で表現することが求められます。また、クラス分けは英語力テストの結果により行われ、自分の力に合った英語教育を受けることができるように配慮されています。選択必修英語科目は、就職準備（「職場の英語」など）、専門科目への準備（「Academic Listening」など）、TOEICなどの技能試験対策などがあり、英語力、進路、興味などに合わせて選択できます。原則的に毎学期、必修と選択必修の英語をそれぞれ1科目ずつ、時間にすると1コマ90分の授業を週に4コマ、すなわち6時間の英語の授業を受けていきます。

英語の授業の時間が大切なことは言うまでもありませんが、英語力は授業だけでは決して身につけません。授業の予習・復習、課題等をしっかりとこなすという家庭学習が必須です。さらに、学内にはパソコンを使ったeラーニングシステムやイングリッシュ・カフェランチョン等、授業外で英語を学ぶ機会がさまざま提供されています。毎年TOEICの目標値を決めてその達成に努め、教員もそれを支援していきます。英語力をつけるには、いかに自主性をもって日常的に英語に触れるかが大きな鍵となります。

また、本学では英語力をつける授業は英語科目に限定されるとは考えていません。いくつかの専門科目やゼミナールは英語で講義が行なわれています。それらの授業では、講義を英語で聞き、教科書や資料を英語で読み、英語で議論し、英語でレポートを書く、といったように、実際に「英語を使って」学習していきます。泳ぎ方をいくら教わっても、自分で泳いでみなければ決して泳げるようにならないのと同様に、英語についていくら学んでも、自分が（すでに持っている知識をフル活用しながら）英語を使ってみなければ、英語が使いこなせるようにはなりません。英語で授業を行う科目が専門科目として提供されている理由はここにあります。

専門科目で提供されている科目は「異文化理解」「英米文学」「言語研究」「言語教育（08年次以前は児童英語教育）」というカテゴリーで括られていて、それぞれの「各論」に当たる講義が提供されています。各論に入る前に、まずはしっかりと「総論」的な全体像をとらえておいた方が理解しやすいので、基礎科目（～概論）が設けられています。あるカテゴリーに興味があれば、集中してコースとして学習することもできますし、カテゴリーに関わらず自分の関心にしたがって独自に関連付けて学習していくこともできます。ここでも教養科目や基礎科目を通じて、大学での勉強の仕方、学問的なものの考え方をしっかりと身につけておくことが、専門科目の内容をきちんと理解するためには必須になります。

こうした「学内での学び」を家庭教師ボランティアや児童英語教育などの地域活動に活かし、学外で体験・実証していく活動も本学では盛んに行われています。この活動をサービスラーニングといい、これら「学外での学び」を通して市民社会の一員として、活躍することもできます。

このようにカリキュラムを順序よく、かつバランスよく履修することや、地域での活動を通じて皆さんが将来必要となる知識や生きていく力を養ってもらいたいと考えています。様々な科目やプログラムがありますので、選択で迷うことがあれば、アドバイザーとよく相談しながら、長期的視点にたった計画を立てて下さい。

2. 授業科目の構成

授業科目の内容は以下のように構成されています。

- | | |
|----------|------------------------------------|
| (1) 英語科目 | └─ 必修科目 |
| | └─ 選択必修科目 |
| (2) 教養科目 | └─ 必修科目 (人間学) |
| | └─ 選択科目 |
| (3) 基礎科目 | ── 選択科目 |
| (4) 専門科目 | └─ 必修科目 (ゼミナール) (プレ・ゼミナールー09年次生より) |
| | └─ 選択科目 |

必修科目 …… 必ず履修しなければならない科目

選択必修科目 …… 指定された科目の中から選択して、所定の単位を必ず履修しなければならない科目

選択科目 …… 自由に選択して履修できる科目

3. 卒業に必要な科目・最低単位数

2年の修業年限を満たし、次の条件を満たすことにより、本学を卒業する資格が与えられます。(1年次で30単位以上修得できない場合は、卒業見込証明書が発行されない場合があります。)

【06・07・08年次生】

<授業科目の構成からみる 卒業に必要な科目・単位数>

英語科目	14単位 (必修8単位, 選択必修6単位)
教養科目	16単位 (必修4単位, 選択12単位)
基礎/専門科目	36単位 (必修4単位, 選択32単位)
合計	66単位

<必修・選択別でみる 卒業に必要な科目・単位数>

必修	16単位 (英語科目8単位, 教養科目4単位, 専門科目4単位)
選択必修	6単位 (英語科目6単位)
選択	44単位 (教養科目12単位, 基礎科目/専門科目32単位)
合計	66単位

【09年次生】

<授業科目の構成からみる 卒業に必要な科目・単位数>

英語科目	14単位 (必修8単位, 選択必修6単位)
教養科目	16単位 (必修4単位, 選択12単位)
基礎/専門科目	36単位 (必修6単位, 選択30単位)
合計	66単位

<必修・選択別でみる 卒業に必要な科目・単位数>

必修	18単位 (英語科目8単位, 教養科目4単位, 専門科目6単位)
選択必修	6単位 (英語科目6単位)
選択	42単位 (教養科目12単位, 基礎科目/専門科目30単位)
合計	66単位

4. 標準配当表

【06年次生以前】

区分		1年次・春学期 第1セメスター (準備期)		1年次・秋学期 第2セメスター (発展期)		2年次・春学期 第3セメスター (応用期)		2年次・秋学期 第4セメスター (完成期)	
英語科目	必修 (8単位)	English Expression 1 English Comprehension 1 (いずれか)	2	English Expression 1 English Comprehension 1 (いずれか)	2	English Expression 2 English Comprehension 2 (いずれか)	2	English Expression 2 English Comprehension 2 (いずれか)	2
	選択必修 (6単位)	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2		
教養科目	必修 (4単位)	人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2				
	選択 (12単位)	選択科目 (12)							
基礎／専門科目	必修 (4単位)					ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
	選択 (32単位)	選択科目 (32)							

【07・08年次生】

区分		1年次・春学期 第1セメスター (準備期)		1年次・秋学期 第2セメスター (発展期)		2年次・春学期 第3セメスター (応用期)		2年次・秋学期 第4セメスター (完成期)	
英語科目	必修 (8単位)	英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
	選択必修 (6単位)	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2		
教養科目	必修 (4単位)	人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2				
	選択 (12単位)	選択科目 (12)							
基礎／専門科目	必修 (4単位)					ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
	選択 (32単位)	選択科目 (32)							

【09年次生】

【55年度】

区分		1 年次・春学期 第 1 セメスター (準備期)		1 年次・秋学期 第 2 セメスター (発展期)		2 年次・春学期 第 3 セメスター (応用期)		2 年次・秋学期 第 4 セメスター (完成期)	
英語科目	必修 (8 単位)	英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
	選択必修 (6 単位)	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2		
教養科目	必修 (4 単位)	人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2				
	選択 (12 単位)	選択科目 (12)							
基礎／ 専門科目	必修 (6 単位)			プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
	選択 (30 単位)	選択科目 (30)							

5. 履修上の注意

(1) 履修登録の上限

履修できる単位数の上限は1学期につき **24 単位** です。

(2) 同一科目の重複履修

同一の授業科目は重複して履修することはできません。担当者が異なっても同じ科目名であれば、同一科目とみなされます。ただし、履修した科目が不合格で単位が修得できなかった場合は、もう一度履修することができます。(例)「基礎英語スキルズ(リーディング)」の授業は春学期と秋学期で違う担当者 → 同じ科目名なので同一科目 → 春学期に単位が修得できた場合、秋学期は履修できない。

- 下記の科目は科目名が同じで単位数が異なりますが、同一科目です。重複履修はできません。

【06年・07年・08年・09年次生】

2006・2007・2008・2009年度開講科目名	2009年度開講科目名
日本国憲法(4 単位)	日本国憲法(2 単位) 春学期集中講義

- 下記の科目は科目名が異なりますが、同一科目とみなされます。すでに単位を修得済みの場合、今年度の重複履修はできませんので注意すること。

【06年・07年・08年次生】

2006・2007・2008年度開講科目名	2009年度開講科目名
日本語教授法	日本語教育概論

【06年・07年次生】

2006・2007年度開講科目名	2009年度開講科目名
歴史	歴史学
国語表現法	日本語表現法

【06年次生】

2006年度開講科目名	2009年度開講科目名
標準英語スキルズ(テスト対策)	標準英語スキルズ(TOEIC対策)
西洋研究 A	西洋研究(2009年度は休講・隔年開講)

(3) 受講者数制限科目

人数制限のある科目（P. 59～P. 64の開講科目表の**備考欄に「人」**とある科目）は履修登録前に仮登録を行い、受講希望者多数の場合抽選を行います（詳細は「履修登録の手引き」を参照のこと）。その他の科目についても原則的には人数制限しませんが、初回の授業の受講希望状況によっては制限を行う場合もあります。第1～2回目の授業、その他掲示等に注意して下さい。

(4) 必修科目のクラス指定、ゼミ

必修科目は指定されたクラスを履修して下さい。1年次秋学期必修のプレ・ゼミナールとともに、2年次必修のゼミの選択・登録については1年次中に始まりますので掲示等に注意して下さい。

(5) 英語スキルズ科目

原則として各学期に1科目までとします。

(6) 教養科目の「体育理論・実技」は卒業要件単位として4単位まで算入されます。ただし、同一科目の重複履修はできません。（例）春学期に「体育理論・実技2」の単位を修得済み→秋学期の「体育理論・実技2」は履修できません（体育理論・実技1か3は履修可能）。

(7) 基礎科目の「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」「中国語」は卒業要件単位として4単位まで算入されます。

(8) 他の科目の履修が前提となる科目

児童英語教育演習・・・履修するには、児童英語教育概論の単位を修得済であることが必要です。

日本語教育演習・・・履修するには、日本語教育概論または2008年度以前に開講された日本語教授法の単位を修得済であることが必要です。

(9) 履修希望者が極めて少数の場合、開講を取り消すこともあります。

6. 基礎科目／専門科目のコース制度

専門科目は「異文化理解」「英米文学研究」「言語研究」「言語教育（09年次生）」（06・07・08年次生は「児童英語教育」）の4つの領域に分類されています。ある領域を集中してコースとして学ぶことも可能ですし、それぞれの領域から自由に科目を選択して履修することも可能です。

それぞれのコースの**基礎科目**（異文化理解：キリスト教文化入門又は異文化間コミュニケーション、英米文学研究：英文学概論、言語研究：言語学概論、言語教育：児童英語教育概論又は日本語教育概論（06・07・08年次生は児童英語教育：児童英語教育概論））**4単位＋そのコースの関連科目を16単位以上、合計20単位以上修得した場合は、申請に基づき「コース修了証」を発行し、修了コース名を成績証明書に記載します。**希望者は、2年次の秋学期の履修登録時に申請を行います（所定用紙）。

（注）【P. 61～P. 64の開講科目表を参考】

2つのコースどちらにでも算入できる科目は、1つのコース分にしか数えられません。2つのコースどちらにでも算入できる科目を、1回しか数えなくても2コース分の修了証が申請可能な場合は、申請書を2枚提出して下さい。

<各コースの概要>

異文化理解コース	英米文学研究コース	言語研究コース	言語教育コース	児童英語教育コース (06・07・08年次生)
さまざまな国の文化や社会、歴史、考え方などについて学びます。	英語圏の文学を通してさまざまな表現手法や思想について学びます。	ことばの仕組みや使い方、バリエーションなどについて学びます。	子供たちへの英語の教え方や外国籍の方への日本語の教え方を、理論と実践の両面から学びます。	子供たちへの英語の教え方を、理論と実践の両面から学びます。

* 次ページに各年次生の各セメスターでの履修例を示します。あくまでも一例ですので、自己の目的や興味関心に従って個人の学習計画を立てて下さい。なお、開講学期や時間割は年度によってかわります。

* 履修例はあくまでも一例であり、毎年の実際の開講学期・時間割は反映されていません。

【06・07・08年次生】

＜異文化理解コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
必修英語	2	必修英語	2	必修英語	2	必修英語	2
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	文化人類学	4
歴史学	4	情報概論	4	東洋研究A	4	現代美術	4
マスメディア論	4	スペイン語Ⅰ	2	国際関係論	4	言語とリテラシー教育	4
キリスト教文化入門	4	異文化間コミュニケーション 日本文化	4	映画に見る文化	4		
合計 18 単位		合計 20 単位		合計 18 単位		合計 16 単位	
英語 4		英語 4		英語 4		英語 2	
教養 10		教養 6		基礎/専門 14		基礎/専門 14	
基礎/専門 4		基礎/専門 10					

2年間 計72単位

＜英米文学研究コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
必修英語	2	必修英語	2	必修英語	2	必修英語	2
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語史	4
日本国憲法	4	哲学	4	体育理論実技3	2	日本文化	4
体育理論実技2	2	フランス語Ⅰ	2	フランス語Ⅱ	2	ヨーロッパ現代史	4
英文学概論	4	演劇研究	4	小説研究	4		
		アメリカ文学史	4	映画と文学	4		
合計 16 単位		合計 20 単位		合計 18 単位		合計 16 単位	
英語 4		英語 4		英語 4		英語 2	
教養 8		教養 6		教養 2		基礎/専門 14	
基礎/専門 4		基礎/専門 10		基礎/専門 12			

2年間 計70単位

＜言語研究コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
必修英語	2	必修英語	2	必修英語	2	必修英語	2
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	第二言語習得	4
社会学	4	法学	4	音声学	4	英語史	4
心理学	4	言語学概論	4	社会言語学	4	言語とリテラシー教育	4
ドイツ語Ⅰ	2	異文化間コミュニケーション	4	日本語学	4		
合計 16 単位		合計 18 単位		合計 18 単位		合計 16 単位	
英語 4		英語 4		英語 4		英語 2	
教養 10		教養 6		基礎/専門 14		基礎/専門 14	
基礎/専門 2		基礎/専門 8					

2年間 計68単位

＜児童英語教育コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
必修英語	2	必修英語	2	必修英語	2	必修英語	2
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	初等教育	4
教育学	4	音楽	4	児童英語教育演習	4	児童心理学	4
社会福祉入門	4	児童英語教育概論	4	児童英語教材論	4	第二言語習得	4
日本語表現法	4	キャリアプランニング	4	世界の教育	4		
合計 18 単位		合計 18 単位		合計 18 単位		合計 16 単位	
英語 4		英語 4		英語 4		英語 2	
教養 10		教養 6		基礎/専門 14		基礎/専門 14	
基礎/専門 4		基礎/専門 8					

2年間 計70単位

* 履修例はあくまでも一例であり、毎年の実際の開講学期・時間割は反映されていません。

【09年次生】

＜異文化理解コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
人間学Ⅰ	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
必修英語	2	人間学Ⅱ	2	必修英語	2	必修英語	2
英語スキルズ	2	必修英語	2	英語スキルズ	2	文化人類学	4
経済学	4	英語スキルズ	2	東洋研究A	4	比較政治制度論	4
マスメディア論	4	情報概論	4	国際関係論	4	グローバルテラシー研究	4
キリスト教文化入門	4	異文化間コミュニケーション	4	映画に見る文化	4		
		ヨーロッパ現代史	4				
合計 18 単位		合計 20 単位		合計 18 単位		合計 16 単位	
英語 4		英語 4		英語 4		英語 2	
教養 10		教養 6		基礎/専門 14		基礎/専門 14	
基礎/専門 4		基礎/専門 10					

2年間 計72単位

＜英米文学研究コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
人間学Ⅰ	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
必修英語	2	人間学Ⅱ	2	必修英語	2	必修英語	2
英語スキルズ	2	必修英語	2	英語スキルズ	2	英語史	4
教育学	4	英語スキルズ	2	体育理論実技3	2	西洋研究	4
体育理論実技2	2	社会学	4	フランス語Ⅱ	2	ヨーロッパ現代史	4
英文学概論	4	フランス語Ⅰ	2	小説研究	4		
		演劇研究	4	映画と文学	4		
		アメリカ文学史	4				
合計 16 単位		合計 22 単位		合計 18 単位		合計 16 単位	
英語 4		英語 4		英語 4		英語 2	
教養 8		教養 6		教養 2		基礎/専門 14	
基礎/専門 4		基礎/専門 12		基礎/専門 12			

2年間 計72単位

＜言語研究コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
人間学Ⅰ	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
必修英語	2	人間学Ⅱ	2	必修英語	2	必修英語	2
英語スキルズ	2	必修英語	2	英語スキルズ	2	第二言語習得	4
社会学	4	英語スキルズ	2	音声学	4	英語史	4
心理学	4	法学	4	社会言語学	4	異文化間コミュニケーション	4
ドイツ語Ⅰ	2	言語学概論	4	日本語学	4		
		言語とリテラシー教育	4				
合計 16 単位		合計 20 単位		合計 18 単位		合計 16 単位	
英語 4		英語 4		英語 4		英語 2	
教養 10		教養 6		基礎/専門 14		基礎/専門 14	
基礎/専門 2		基礎/専門 10					

2年間 計70単位

＜言語教育コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
人間学Ⅰ	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
必修英語	2	人間学Ⅱ	2	必修英語	2	必修英語	2
英語スキルズ	2	必修英語	2	英語スキルズ	2	初等教育	4
心理学	4	英語スキルズ	2	児童英語教育演習	4	児童心理学	4
歴史学	4	音楽	4	児童英語教材論	4	第二言語習得	4
日本語表現法	4	児童英語教育概論	4	世界の教育	4		
		キャリアプランニング	4				
合計 18 単位		合計 20 単位		合計 18 単位		合計 16 単位	
英語 4		英語 4		英語 4		英語 2	
教養 10		教養 6		基礎/専門 14		基礎/専門 14	
基礎/専門 4		基礎/専門 10					

2年間 計72単位

7. サービスラーニングとカリキュラムとの関連

学科の中には言語教育コース（09年次生）が設置され、その中に日本語教育と児童英語教育の科目群が置かれています（06・07・08年次生は児童英語教育コースおよび言語研究コース内にこれらの科目群を設置）。家庭教師ボランティア・日本語教育支援ボランティアに参加する学生のために、「日本語学」、「日本語教育概論」、「日本語教育演習」などの授業が用意され、また英語教育ボランティアに参加する学生のためには、「児童英語教育概論」、「児童英語教材論」、「児童英語教育演習」、「第二言語習得」などの授業が用意されています。これらの科目を履修することで、理論と実践の上で学問的な裏付けを持って、地域社会における教育支援活動に臨むことが可能です。「児童英語教育概論」と「児童英語教育演習」の履修に加え、通信講座（有料）とワークショップ（有料）を受講することで、小学校英語指導者認定協議会（J-shine）による「小学校英語指導者資格」の取得へも繋がります。

また、本学の時間割にはこれら活動を支援するため、サービスラーニング枠が設けられており、その時間を活用して学生は地域社会でのサービスラーニング活動を行うことが奨励されています。

なお、次ページ以降の9. 開講科目表の「サービスラーニング関連度」項目欄には、これらコース内のサービスラーニング関連科目と、コース外でもサービスラーニングに関連する内容を授業の一部に取り入れている科目には、その度合いによってA（非常に関連）、B（ある程度関連）、C（少々関連）を表示していますので、履修の参考にしてください。

8. インデペンデント・スタディ

既設の科目で扱われている内容をより深く理解するため、あるいは現在開講されていない科目のテーマについて自ら学ぶため、学生が主体的に指導教員のもとで研究し、研究報告書として成果をまとめ、評価を受けることにより、専門科目として2単位を付与する制度です。

登録を希望する学生は自分の研究テーマに相応しい指導教員（専任教員に限る）を選び、登録前に承諾を受けます。登録は在学中に1回限りとします。研究テーマについては、登録する学期の前の学期中に教員と相談することが望まれます。なお、各学期につき一人の教員が指導する学生は原則2名以内です。

<登録までの手続き>

- ① 登録を希望する学期までに研究テーマを決め、指導教員を決定します。
- ② 「研究計画書」を作成し、指導教員へ提出します。指導教員は教務委員長、学科長とともにその計画書を審査します。
*研究テーマは指導教員と相談の上決定します。
- ③ 指導教員と教務委員長及び学科長の許可を受けた上で、春学期あるいは秋学期の履修登録期間に登録を行います。

<履修～評価>

- ① 学生は登録した学期の期間中、定期的に担当教員に対し進捗状況を報告し、指導をうけて下さい。
- ② 学生は登録した学期末までに「研究報告書」を担当教員に提出して下さい。最終的な研究報告書は十分な研究調査に基づいた論文の体裁をとっている必要があります。各学期末（秋学期登録者は1月、春学期登録者は7月）に開催される「公開研究発表会」で研究成果を教員・学生の前でプレゼンテーションした上、評価を受けます。
- ③ 履修を中止する場合は、登録した学期の履修中止期間に行ってください。

9. 開講科目表

英語科目

授業科目名	単位			開講期・授業回数 ◎＝週2 ○＝週1 ●＝週1, 2限連続		関連度 ※サービスマーケティング	※A 非常に, B ある程度, C 少々		
	必修	選必修	選択	春学期	秋学期		履修年次	担当者	備考
英語Ⅰ	2			◎			1年次	M. Andrade, T. Gould, K. Williams, C. Oliver, 平野, 飯田, 永野, 近藤, 神谷, 岩崎, 狩野	クラス指定
英語Ⅱ	2				◎		1年次	M. Andrade, T. Gould, K. Williams, C. Oliver, 平野, 永野, 神谷, 岩崎, 狩野	クラス指定
英語Ⅲ	2			◎			2年次	M. Andrade, J. Dizon, P. Howl, J. Hirai, H. Polychronakos, 狩野, 池, 深澤, 國分, 居村	クラス指定
英語Ⅳ	2				◎		2年次	K. Williams, J. Dizon, G. Fredes, P. Howl, J. Hirai, H. Polychronakos, 深澤, 池, 國分, 居村	クラス指定
基礎英語スキルズ (旅行の英語)		2		◎			1・2年次	H. Polychronakos	[人]
基礎英語スキルズ (生活の英語)		2			◎		1・2年次	P. Howl	[人]
基礎英語スキルズ (リスニング)		2		◎			1・2年次	石原	[人]
基礎英語スキルズ (文法)		2		◎	◎		1・2年次	(春) 石原 (秋) 深澤	[人]
基礎英語スキルズ (ライティング)		2			◎		1・2年次	石原	[人]
基礎英語スキルズ (リーディング)		2		◎	◎		1・2年次	(春) 居村 (秋) 池	[人]
基礎英語スキルズ (語彙)		2		◎			1・2年次	深澤	[人]
標準英語スキルズ (生活の英語)		2		◎			1・2年次	深澤	[人]
標準英語スキルズ (旅行の英語)		2			◎		1・2年次	服部	[人]
標準英語スキルズ (職場の英語)		2		◎			1・2年次	J. Hirai, P. Howl	[人]
標準英語スキルズ (メディアの英語)		2			◎		1・2年次	H. Polychronakos	[人]
標準英語スキルズ (文法・語彙)		2		◎	◎		1・2年次	服部	[人]
標準英語スキルズ (ライティング)		2		◎	◎		1・2年次	J. Dizon	[人]
標準英語スキルズ (リーディング)		2		◎	◎		1・2年次	(春) 服部, 國分 (秋) 石原	[人]
標準英語スキルズ (パブリックスピーキング)		2		◎			1・2年次	S. Howell	[人]
標準英語スキルズ (ディスカッション)		2			◎		1・2年次	S. Howell	[人]
標準英語スキルズ (アカデミックリスニング)		2		◎			1・2年次	池	[人]
標準英語スキルズ (編入対策)		2		◎			1・2年次	平野	[人]
標準英語スキルズ (TOEIC対策)		2			◎		1・2年次	居村	[人] 注 P. 54参照
上級英語スキルズ (ライティング)		2		◎			1・2年次	S. Howell	[人]
上級英語スキルズ (ディベート)		2			◎		1・2年次	S. Howell	[人]

教養科目

授業科目名	単位			開講期・授業回数 ◎＝週2 ○＝週1 ●＝週1,2限連続		サ ー ビ ス ラ イ ン グ ※ 関 連 度	※A 非常に, B ある程度, C 少々		
	必修	選 必	選 択	春 学 期	秋 学 期		履修 年次	担当者	備考
人間学Ⅰ	2			○		A	1年次	R. M. Cortés, 榊田, 小林, 岩崎, 宮越, 田村	クラス指定
人間学Ⅱ	2				○	A	1年次	R. M. Cortés, 榊田, 小林, 岩崎, 宮越, 田村	クラス指定
歴史学			4	◎			1・2 年次	森下	注 P. 54参照
哲学			4		◎		1・2 年次	R. M. Cortés	
女性と哲学			4					2009年度休講	
宗教学			4	◎	◎	C	1・2 年次	小林	
音楽			4		◎		1・2 年次	北村	
女性学			4					2009年度休講	
社会学			4	◎	◎	C	1・2 年次	島	
日本国憲法			4	◎		B	1・2 年次	高野	注 P. 54参照
法学			4		◎		1・2 年次	高野	
教育学			4	◎	◎	B	1・2 年次	濱谷	
政治学			4					2009年度休講	
経済学			4	◎	◎		1・2 年次	白瀬	
社会福祉入門			4		◎		1・2 年次	森澤	
マスメディア論			4	◎	◎		1・2 年次	蔡	
情報概論			4		◎		1・2 年次	駒形	
自然科学入門			4					2009年度休講	
数学			4	◎			1・2 年次	加藤	
心理学			4	◎		B	1・2 年次	林	
体育理論・実技 1			2	○	○		1・2 年次	木皿	[人]
体育理論・実技 2			2	○	○		1・2 年次	小澤	[人]
体育理論・実技 3			2	○	○		1・2 年次	小澤	[人]

● 集中講義

日本国憲法			2	春学期 集中講義	B	1・2 年次	高野	4/25(土), 4/26(日), 4/29(水) 開講 注 P. 54参照
-------	--	--	---	-------------	---	-----------	----	---

基礎科目

授業科目名	単位			開講期・授業回数 ◎＝週2回 ●＝週1回		サ ー ビ ス プ ラ ン ニ ン グ ※ 関 連 度	※A 非常に、B ある程度、C 少々		
	必修	選択	選択	春 学期	秋 学期		履修 年次	担当者	備考
異文化理解コース関連科目（基礎科目）							各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい		
キリスト教文化入門			4	◎		C	1・2 年次	輪講 (コーディネーター：小林)	
異文化間コミュニケーション			4		◎	C	1・2 年次	C.Oliver	* 言語研究コース にも算入可
英米文学研究コース関連科目（基礎科目）							各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい		
英文学概論			4	◎	◎	C	1・2 年次	(春) 平野 (秋) 飯田	
言語研究コース関連科目（基礎科目）							各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい		
言語学概論			4	◎	◎	C	1・2 年次	(春) 近藤 (秋) 神谷	
言語教育コース（09年次生）関連科目（基礎科目）							各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい		
児童英語教育概論			4		◎	A	1・2 年次	岩崎	
日本語教育概論			4		◎	A	1・2 年次	宮崎	06・07・08年次 生も履修可。 但し、注P.54を 参照。
児童英語教育コース（06・07・08年次生）関連科目（基礎科目）							各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい		
（児童英語教育概論）			4		◎	A	1・2 年次	岩崎	
ドイツ語Ⅰ			2	◎	◎		1・2 年次	工藤	[人]
ドイツ語Ⅱ			2	◎			1・2 年次	工藤	[人]ドイツ語Ⅰ既 習者か、それに 相当する者
フランス語Ⅰ			2	◎	◎		1・2 年次	横田	[人]
フランス語Ⅱ			2	◎			1・2 年次	横田	[人]フランス語Ⅰ既 習者か、それに 相当する者
スペイン語Ⅰ			2	◎	◎		1・2 年次	A. Yáñez	[人]
スペイン語Ⅱ			2	◎			1・2 年次	A. Yáñez	[人]スペイン語Ⅰ 既習者か、それ に相当する者
中国語Ⅰ			2	◎	◎		1・2 年次	廣重	[人]
中国語Ⅱ			2	◎			1・2 年次	廣重	[人]中国語Ⅰ既 習者か、それに 相当する者
日本語表現法			4	◎	◎	C	1・2 年次	(春) 宮崎, 樋口 (秋) 宮崎	[人] 注 P.54参照
キャリア・プランニング			4		◎		1・2 年次	輪講(コーディネ ーター：森下)	同窓会寄附 講座
留学準備			2	◎			1・2 年次	神谷	夏の短期語学 講座申込者のみ
留学準備			2		◎		1・2 年次	飯田	春の短期語学 講座申込者、他

専門科目

授業科目名	単位			開講期・授業回数 ◎＝週2回 ●＝週1回		サ ー ビ ス ラ イ ン グ ※ 関 連 度	※A 非常に、B ある程度、C 少々		
	必修	選択	選択	春 学期	秋 学期		履修 年次	担当者	備考
プレ・ゼミナール	2				○	宮崎 ゼミ A 濱谷 ゼミ B	1年 次	M. Andrade, 高野, 平野, 飯田, 森下, 永野, 神谷, 岩崎, K. Williams, 宮崎, T. Gould, C. Oliver, 小林, 狩野, 濱谷	原則として2年 次にゼミⅠ・Ⅱ 担当教員と同一 教員を履修。但 し、教員のサバ ティカルにより 同一教員が履修 できない場合が ある。詳細は6 月のゼミナール 説明会にて。
ゼミナールⅠ	2			○		宮崎 ゼミ A 濱谷 ゼミ B	2年 次	M. Andrade, 高野, 平野, 飯田, 森下, 永野, 神谷, 岩崎, K. Williams, 宮崎, T. Gould, C. Oliver, 小林, 濱谷	ゼミⅠとゼミⅡ は同一教員を履 修
ゼミナールⅡ	2				○	宮崎 ゼミ A 濱谷 ゼミ B	2年 次		
異文化理解コース関連科目									
東洋研究A			4	◎			1・2 年次	田畑	
東洋研究B			4		◎		1・2 年次	田畑	
西洋研究			4					2009年度休講	【隔年開講】 注 P.54参照
日本文化			4		◎		1・2 年次	森下	
英米史			4	◎			1・2 年次	森下	【隔年開講】
ヨーロッパ社会史			4	◎			1・2 年次	鍋谷	
ヨーロッパ現代史			4		◎		1・2 年次	鍋谷	
比較社会史			4	◎			1・2 年次	森下	
国際関係論			4	◎		B	1・2 年次	高野	
文化人類学			4		◎	C	1・2 年次	C. Oliver	
現代美術			4		◎		1・2 年次	G. Fredes	
映画に見る文化			4	◎			1・2 年次	K. Williams	
世界の教育			4	◎		B	1・2 年次	濱谷	*言語教育・児 童英語教育コース にも算入可
グローバルリテラシー 研究			4					2009年度休講	【隔年開講】
言語とリテラシー教育			4		◎	B	1・2 年次	M. Andrade	*言語研究コース にも算入可 【隔年開講】
個人と人権			4		◎	B	1・2 年次	高野	【隔年開講】
比較政治制度論			4					2009年度休講	【隔年開講】

専門科目（続き）

授業科目名	単位			開講期・授業回数 ◎＝週2回 ●＝週1回		サ ー ビ ス ス ラ イ ン グ ※ 関 連 度	※A 非常に、B ある程度、C 少々		
	必修	選 必	選 択	春 学期	秋 学期		履修 年次	担当者	備考
英米文学研究コース関連科目									
英語英米文学入門			4					2009年度休講	
アメリカ短編小説研究			4					2009年度休講	
英詩研究			4	◎			1・2 年次	飯田	
演劇研究			4		◎		1・2 年次	飯田	
小説研究			4	◎			1・2 年次	永野	
アメリカ文学史			4		◎		1・2 年次	永野	【隔年開講】
映画と文学			4					2009年度休講	【隔年開講】
翻訳演習			4	◎			1・2 年次	永野	
(英語史)			4		◎		1・2 年次	平野	
言語研究コース関連科目									
社会言語学			4	◎		B	1・2 年次	神谷	
音声学			4	◎			1・2 年次	池	*言語教育・児童英語教育コースにも算入可
日本語学			4	◎		B	1・2 年次	宮崎	*言語教育コースにも算入可
語用論			4	◎		C	1・2 年次	近藤	【隔年開講】
英語史			4		◎		1・2 年次	平野	*英米文学研究コースにも算入可
通訳演習			4					2009年度休講	【隔年開講】
日本語教授法			4					閉講	
(異文化間コミュニケーション)			4		◎	C	1・2 年次	C. Oliver	
(言語とリテラシー教育)			4		◎	B	1・2 年次	M. Andrade	【隔年開講】
(バイリンガル教育)			4					2009年度休講	
(第二言語習得)			4		◎	B	1・2 年次	T. Gould	
言語教育コース（09年次生）関連科目									
バイリンガル教育			4					2009年度休講	*言語研究・児童英語教育コースにも算入可
初等教育			4		◎	B	1・2 年次	濱谷	*児童英語教育コースにも算入可
児童心理学			4		◎	B	1・2 年次	林	*児童英語教育コースにも算入可
第二言語習得			4		◎	B	1・2 年次	T. Gould	*言語研究・児童英語教育コースにも算入可
児童英語教材論			4	◎		A	1・2 年次	狩野	*児童英語教育コースにも算入可

専門科目（続き）

授業科目名	単位			開講期・授業回数 ◎＝週2回 ●＝週1回		サ ー ビ ス ラ イ ン グ ※ 関 連 度	※A 非常に、B ある程度、C 少々		
	必修	選択	選択	春 学期	秋 学期		履修 年次	担当者	備考
児童英語教育演習			4	◎		A	2年次	T. Gould	児童英語教育概論の単位修得済が履修の条件 *児童英語教育コースにも算入可
日本語教育演習			4	◎		A	2年次	宮崎	日本語教育概論の単位修得済が履修の条件。 06・07・08年次生は、08年度以前開講の日本語教授法の単位修得済でも履修可。
（世界の教育）			4	◎		B	1・2年次	濱谷	
（音声学）			4	◎			1・2年次	池	
（日本語学）			4	◎		B	1・2年次	宮崎	
児童英語教育コース（06・07・08年次生）関連科目									
（バイリンガル教育）			4					2009年度休講	
（初等教育）			4		◎	B	1・2年次	濱谷	
（児童心理学）			4		◎	B	1・2年次	林	
（第二言語習得）			4		◎	B	1・2年次	T. Gould	
（児童英語教材論）			4	◎		A	1・2年次	狩野	
（児童英語教育演習）			4	◎		A	2年次	T. Gould	児童英語教育概論の単位修得済が履修の条件
（世界の教育）			4	◎		B	1・2年次	濱谷	
（音声学）			4	◎			1・2年次	池	
インデペンデント・スタディ			2				1・2年次	担当教員	詳細はP.58 参照
海外短期語学講座			2				1・2年次	短期留学制度	詳細はP.46 参照

【06年次生以前の必修科目新旧対応表】

2006年度以前に修得できなかった科目	2009年度履修が必要な科目
English Comprehension 1	英語Ⅰ 又は 英語Ⅱ
English Expression 1	英語Ⅰ 又は 英語Ⅱ
English Comprehension 1 と English Expression 1 両方	英語Ⅰ と 英語Ⅱ 両方
English Comprehension 2	英語Ⅲ 又は 英語Ⅳ
English Expression 2	英語Ⅲ 又は 英語Ⅳ
English Comprehension 2 と English Expression 2 両方	英語Ⅲ と 英語Ⅳ 両方